

# 薬剤内服に関するアンケート結果について

この度は、2016/5/23より5/27まで、5日間の間に山の手調剤薬局とクリオネ調剤薬局に来院していただいた方を対象に行いました。「薬剤の飲み忘れの実態研究」の結果をご報告致します。全部で217名の方にご協力頂きました。アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。

アンケート頂いた年齢は以下の通りでした。

10歳以下	2人
11～19歳	1人
20～29歳	3人
30～39歳	8人
40～49歳	27人
50～59歳	23人
60～69歳	45人
70～79歳	62人
80～89歳	26人
90歳以上	2人

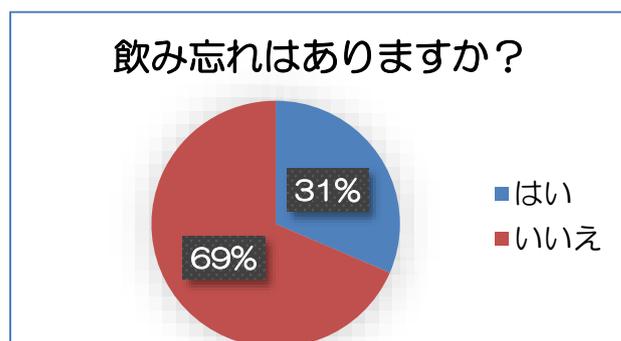
当院では28の診療科があります。そのうち11の診療科を受診した方から回答を頂きました。

質問①：何種類の薬を服用していますか？

答え：平均で、**4.6種類**の薬を服用していらっしゃいました。

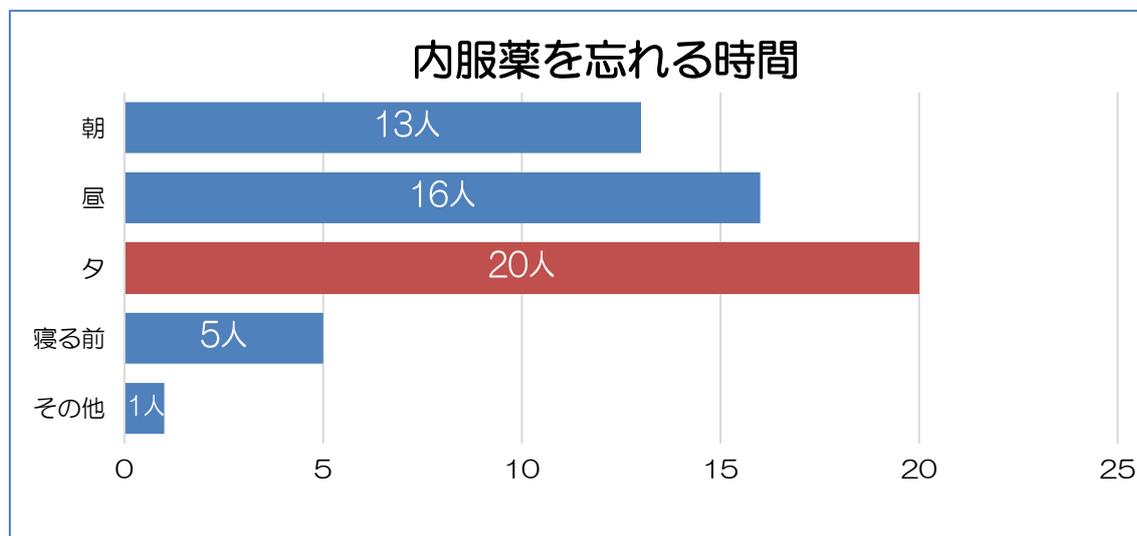
質問②：内服薬を飲み忘れることはありますか？

答え：**31%の方が「飲み忘れがある」と**答えました。



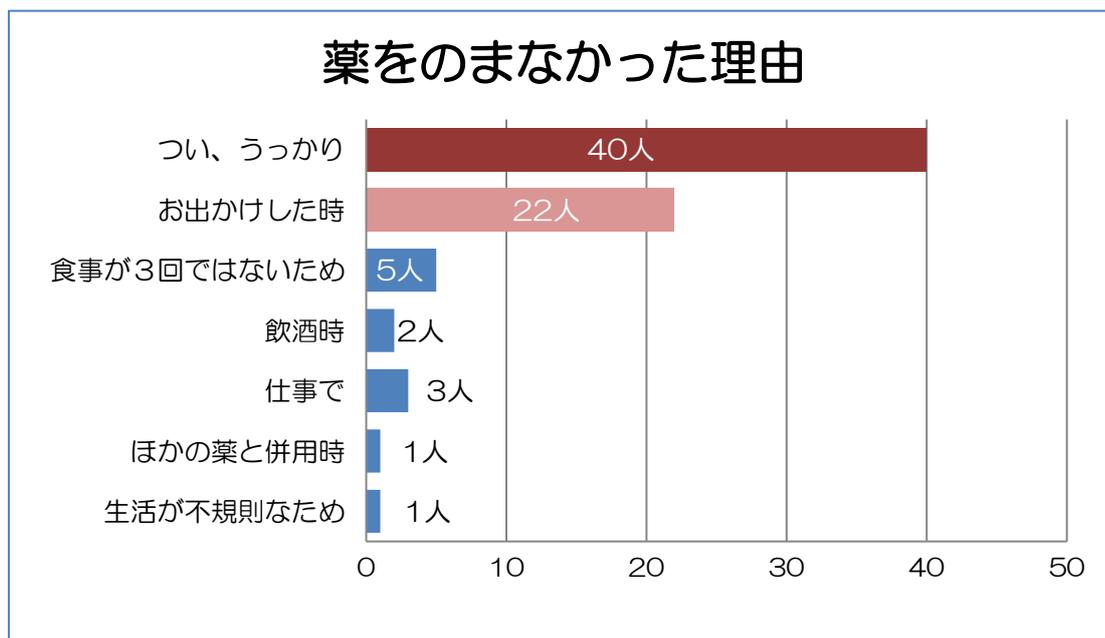
### 質問③：いつ、内服薬を忘れますか？

答え：昼食時に内服を忘れる人が多いものと想像していましたが、予想に反して、**夕食前後の内服**を忘れる人が多いようです。



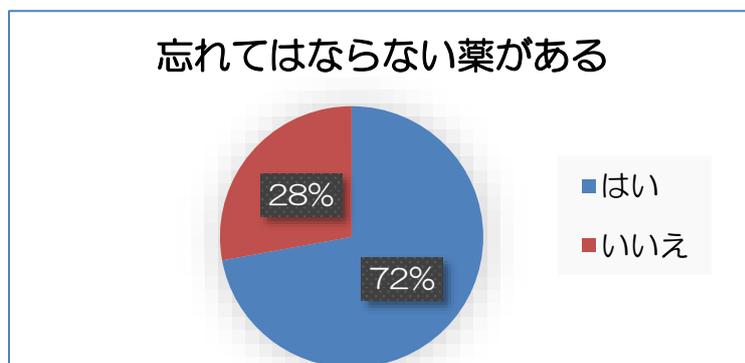
### 質問④：薬を飲まなかった理由について

答え：やはり、「**つい、うっかり**」忘れることが断然多いようです。次に、「**お出かけしたとき**」に忘れるでした。致し方ないですね・・・

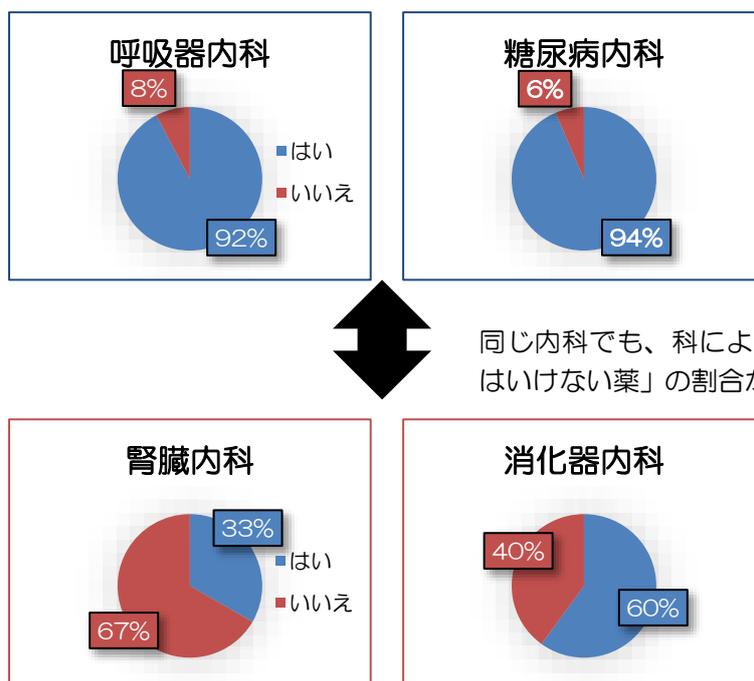


質問⑤：絶対に忘れてはいけないと思う薬はありますか？

答え：7割の方が、「絶対に忘れてはいけない薬」がありました。



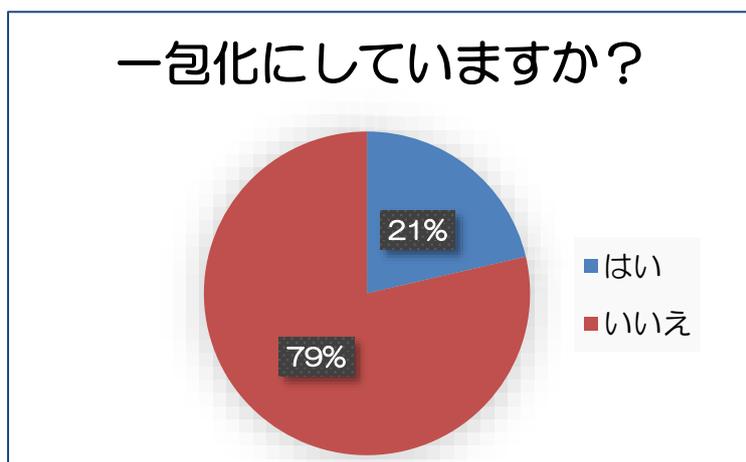
細かく見ると、かかっている科によって、絶対に忘れてはいけない薬の割合は違う様です。



どうして、科によって「忘れてはいけない薬」の割合が異なるのかははっきり分かりません。考えられる理由としては、薬の種類が予防的なものか症状に対して処方されたものか？といった違いが考えられます。血圧や血糖などの検査結果が見えるものや、自分の症状に対しての薬については、忘れづらいという報告もあります。

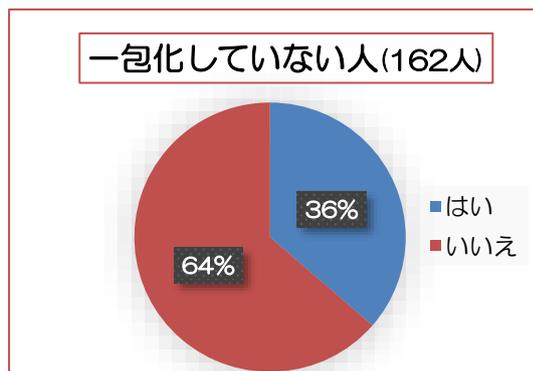
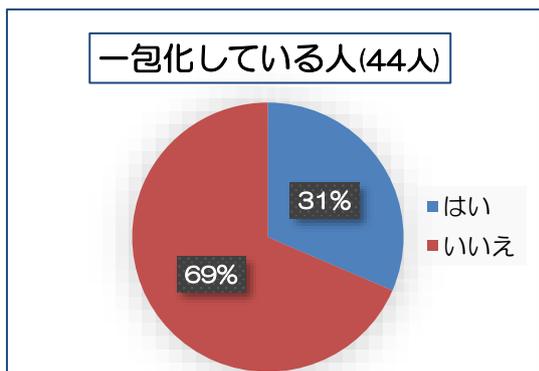
質問⑥：薬は、朝の分や夜の分など、袋の中に分けてもらっていますか？（一包化といいます）

答え：21%(208名回答のうち44名)の方が、「一包化」していました。



一包化すると飲み忘れの割合は変わるのでしょうか？

### 薬の飲み忘れの割合

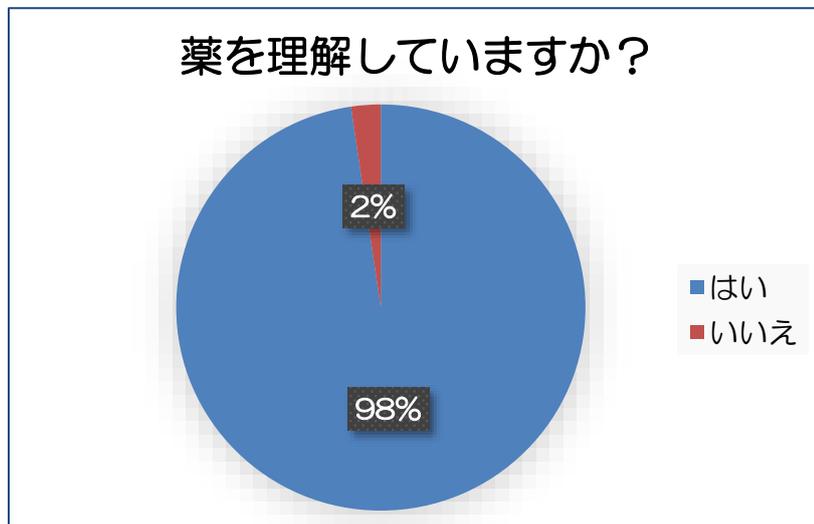


結果は、一包化しても薬の飲み忘れは、「変わりません」でした。

薬は、食事の前後に飲むか飲まないかなので、一包化してもバラバラのままでも、薬の飲み忘れは変わらない様です。

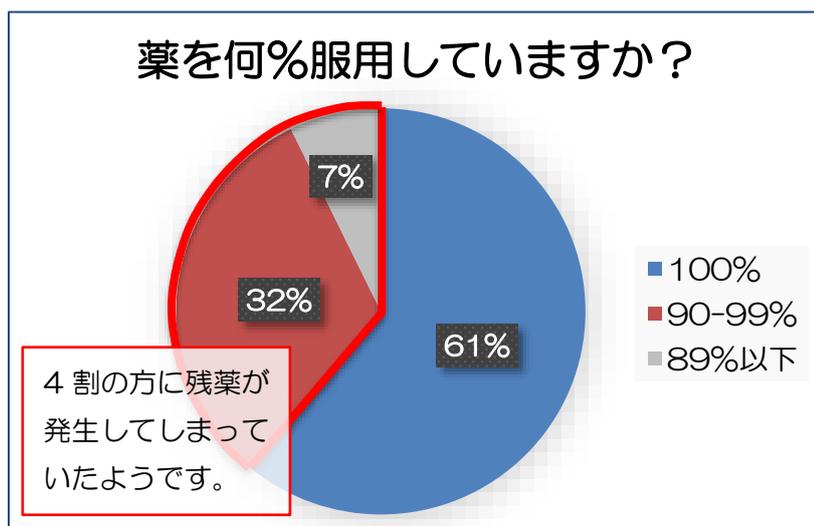
⑦：どういう病気に出されている薬か、全て理解されていますか？

答え：ほとんどの方が「理解されている」との回答でした。



⑧：全部飲む薬を100%とすると、何%服用していますか？

答え：全部飲んでいる方が**半分以上！**一方で、残薬が出てしまった方は4割程度いらっしゃいました。



## まとめ

残薬検査は国（厚労省）でも行っていて、998名の患者調査では、医薬品が余った経験のある方は50.9%、余ったことのない方が43.9%でした。

この検査と比較すると、当院における内服状況は非常に良好です。当院では、内服薬が余った経験のある方は39%でした。

また、国の1072名の患者調査では、医薬品が余った理由として、67.6%の方が、「飲み忘れ」が積み重なったという結果でした。当院でも、薬を飲まなかった理由として、「つい、うっかり」が40%ほどで一番高く、これは致し方ない様に思います。

## 感想

みなさんの多くは、薬を何のために飲むかご理解されており、そのことが、飲み忘れの割合が低かった一番の理由の様に思います。今回の調査で、皆様が内服薬をちゃんと飲んでいただいていることがわかりました。本当にありがとうございます。

ご協力誠にありがとうございました。

文章 北海道医療センター消化器内科 二瓶 壮史  
本研究代表 北海道医療センター消化器内科 武藤 修一